

若者が声をあげれば政治は変わる

「国会議員と語る会」 たけだ議員 静岡市

たけだ良介参院議員は23日、静岡

市で「国会議員と語る会」に参加しました。主催は民青同盟静岡県委員会と党静岡地区委員会。青年労働者や学生、高校生らが参加しました。

青年から「保育士は長時間労働で大変。どうしたらいいか」などの質

問が出され、たけだ氏は「国の予算

の大幅増額や保育基準の引き上げ、認可保育所の増設が必要です」と答えました。

また、周りの青年に、低すぎる最低賃金をいまずぐ時給1000円、1500円にあげる展望を伝える重要性も語りました。

さらに、たけだ氏は、長野県白馬村の高校生が「雪の恵み、身近な環境を守れ」と「気候非常事態宣言」をしてほしいと村に求め、同村や長野県が宣言を発表したことを紹介、「みなさんの行動が政治を変えます」と強調しました。

たけだ氏は、戦争法の強行、「桜を見る会」などでの国政私物化など、「異常な安倍政権を変えるために野党連合政権を実現しよう」と呼びかけました。



青年と語る武田議員（中央）＝静岡市

名古屋市議会は26日、「新型コロナウイルス対策」に絞った緊急質問を行い、各会派の代表5人が質問に立ちました。日本共産党の岡田ゆき子議員は、市内の医療体制について質問しました。

市内の感染症指定医療機関は2病院12床。市内で感染者が確認されて12日経過した時点で感染者は15人と受け入れ可能病床を超えています。現在は、市外の感染症指定機関に受け入れを依頼しています。

岡田氏が民間を含めた受け入れ状況を質問したことに対し、健康福祉局長は「陽性患者の受け入れが

できる医療機関を募っており、複数の医療機関が手をあげている。必要に応じて拡大しながら、市民が安心できる体制を維持、継続したい」と答えました。

岡田氏はさらに、「ハード整備や人員確保に対する支援を市として行うとともに県や国に財政措置を求めるべきではないか」とたどしました。

健康福祉局長は「医療行政全般は県が担うことになっているので財政支援も県が適切に対処するべき。医療機関の声は県に伝える」と答えました。

温暖化克服語り合う 市民連合 しまづおか中東遠 しまづ前議員

しまづ幸広前衆院議員は26日、静岡県の「市民連合しづおか中東遠」が袋井市で開いた第3回「ときの政治をしゃべる会」に参加し、地球温

碧南市でも議席必ず もとむら氏

もとむら伸子衆院議員は23日、愛知県碧南市の演説会に参加し、4月12日告示、19日投票の同市議選での党の勝利を訴えました。

もとむら氏は、党国会議員団が、新型コロナウイルス問題で検査・医療体制、中小企業支援など万全の対策を求めていることや、再編・統廃合で名指しされた碧南市民病院などの地域医療を守る自身の国会論戦を紹介し、野党共闘の勝利と市議選での勝利を訴えました。

市議選で現有3議席を目指す現職の山口はるみ(70)、岡本守正(76)、磯貝明彦(63)の各候補が公約と決意を表明しました。



暖化対策について話しました。

しまづ氏と社民党元県議の寺田伊勢男氏(憲法9条を護る磐田市民の会会長)が講演。しまづ氏は、「日本の対策は、もっぱら財界の自主努力任せで、さらに石炭火力発電を基幹電源に位置付けている。気候変動に対処する意思も能力もない安倍政権にやめてもらおう」と野党連合政権の必要性を強調しました。

寺田氏も石炭火力や原発推進をやめ、自然エネルギーへの転換を強調しました。

受け入れ病床の確保を 岡田ゆき子市議

名古屋市議会 新型コロナウイルス対策で緊急質問